

岩槻古城八景



① 城口晩鐘



② 鷓首夕照 大手夕照



③ 米蔵跡落雁



④ 高台秋月



⑤ 車橋晴嵐



⑥ 樹木郭夜雨



⑦ 船入口帰帆



⑧ 茶屋台暮雪



⑨ 二本の杉

資料紹介

「岩槻古城八景歌集」

岩槻城周辺の光景を俯瞰的に描いた数少ない資料として「岩槻古城八景」の存在が知られている。

これは明治時代初期に平野糸丸と児玉本也が中心となって企画され、篤楽という人物の手によって描かれた絵画資料であるが、それと同時期に「岩槻古城八景歌集」もまた成立している。

「岩槻古城八景歌集」は「岩槻古城八景」の八つの光景と「二本の杉」の合計九つの光景を詠んだ和歌一六〇首で構成される歌集である。

詠者は平野糸丸や児玉本也等、旧岩槻藩士が中心となっている。〈中略〉

ここでは大正一一年（一九二二）に成立した『岩槻和歌集』に収録されている「岩槻古城八景歌集」を底本として、全文の紹介をしたい。

在りし日の岩槻城を描いた「岩槻古城八景」は当時の様子を知らる上で重要な資料であるが、「岩槻古城八景歌集」はさらなる情報を伝えてくれる。〈以下略〉

『平成28年度さいたま市博物館年報』



【岩槻郷土資料館所蔵「岩槻和歌集」】